

令和8年度

「運営に関する計画」

大阪市立島屋小学校

令和8年4月

大阪市立島屋小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 令和7年度末市学力経年調査の結果(3年生以上国語・算数・英語)、各学年の平均正答率は、国語、算数、英語、すべての学年で市平均を上回った。これまでの取組を継続し、さらに学力の向上を図る。
- 令和7年4月実施の全国学力学習状況調査の結果は、国語では2.8ポイント、算数では、2.0ポイント下回った。四分位区分では、国語科では、区分Ⅲ29.7%、区分Ⅱ26.7%で合計56.4%、算数科では区分Ⅲ44.6%、区分Ⅱ21.8%で合計66.4%となっており、両教科においてボリュームゾーンである区分Ⅲおよび区分Ⅱの割合が多いことが本校の特徴である。一区分Ⅲの児童は、適切な学習支援がなければ区分Ⅳへ移行してしまう可能性もある。区分Ⅲの児童を区分Ⅱへと着実に向上させ、区分Ⅱの児童を区分Ⅰへと導くため、全体の学力の伸長の取組を進めていく。
- 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果、「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目では、肯定的な回答が、男子は全国平均を4ポイント上回り(全国93.4%/自校97.4%)、女子は全国平均を4ポイント下回った(全国85.8%/自校81.8%)。さらに、一週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、全国と比較して男子で1.9ポイント低く(全国9.8%/自校7.9%)、女子で3.9ポイント(全国17.3%/自校21.2%)高かった。体力合計点では、男子、女子ともに全国・大阪市平均を下回った。種目別にみると、男子は全国・大阪市平均を4種目が上回り、3種目が下回った。立ち幅跳びは大阪市平均を上回った。女子は全国・大阪市平均を1種目が上回り、5種目が全国・大阪市平均を下回った。運動に関する意識、体力ともに向上させていくための取り組みを進めていく必要がある。
- 令和7年度の不登校傾向の児童が、623人中12人で1.9%(昨年度2.5%)と昨年度よりも低くなった。個々のケースに応じた登校支援の取組を継続するとともに、教育相談コーディネーターやスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携や教育相談室の活用を図りながら、チームとして取り組みを検討していく。
- 校区が広く、30分以上かけて登校する児童や、バスで通学する児童もいる。近年の湾岸エリア開発のため、幹線道路に大型車両が多く通行する。そこで、登下校時の児童の安全に対する意識を向上させる必要がある。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を1.65以下にする。
- 小学校学力経年調査における「キャリア教育を通して、自分の将来について考えることができた」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、算数のボリュームゾーンにあたる層の変化率を令和8年度より1ポイント向上させる。
※小3時点でのボリュームゾーンにあたる層の小6時点での変化率
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 時間外勤務時間について、年720時間を超えて実施する教員をゼロにする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 小学校学力経年調査における「キャリア教育を通して、自分の将来について考えることができた」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、算数のボリュームゾーンにあたる層の変化率を令和7年度より0.2ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- 時間外勤務時間について、年780時間を超えて実施する教員をゼロにする。

3 本年度の自己評価結果の総括

--

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【3つの最重要目標】</p> <p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。</p> <p>○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「キャリア教育を通して、自分の将来について考えることができた」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。</p> <p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における、算数のボリュームゾーンにあたる層の変化率を令和7年度より0.2ポイント向上させる。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。</p> <p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。</p> <p>○ 時間外勤務時間について、年780時間を超えて実施する教員をゼロにする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況						
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●心の天気の入力 ●いじめアンケートの実施 ●生活指導部会、児童支援委員会の実施 ●不登校児童への支援 ●避難訓練の実施 ●防犯訓練の実施 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心の天気の入力の確認を毎日行い、児童の心の状態の把握に努める。 ・いじめアンケートを各学期に1回以上行い、事案の早期発見、早期対応を行う。 ・生活指導部会を月に一回実施し、児童の共通理解を行うことや児童支援委員会を必要に応じて実施し、SC、SSWとの連携を深めることで、児童の多様な課題について学校と外部機関の組織的な対応を行う。 ・学期末毎の校内調査において、不登校児童の改善の割合を増加させる。(不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の①～③に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握する。)改善とは、次の状態の場合をいう。 <ol style="list-style-type: none"> ① 出席日数の増加(学校内外でICT等を活用した学習活動を行うことによる出席認定含む) ② ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数の増加。 ③ 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につなげることができるようにする。または、継続してつながるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を年に4回実施し、児童と教員の防犯・防災意識の醸成を図る。 ・外部講師を招いて年1回以上研修会を行い、教職員の防犯・防災意識を高める。 							
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域諸団体との連携を強化し、出前授業や社会見学の実施を通して、子どもたちの社会的、職業的な自立を目指す。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4～6年生で年1回以上の出前授業を実施する。 (4年：パッカー車、5年：非行防止教室、6年：租税教室) ・3～6年生で年1回以上、社会見学などを通してキャリア教育を実施する。 <table border="1" data-bbox="178 1641 1318 1872"> <thead> <tr> <th>1学期</th> <th>2学期</th> <th>3学期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>住友電工の工場見学(3年)</td> <td>消防署見学(3年) はがきの書き方講座(2年) 町たんけん(2年) 日本製鉄工場見学(5年)</td> <td>見守り隊へのありがとう集会(全校)</td> </tr> </tbody> </table>	1学期	2学期	3学期	住友電工の工場見学(3年)	消防署見学(3年) はがきの書き方講座(2年) 町たんけん(2年) 日本製鉄工場見学(5年)	見守り隊へのありがとう集会(全校)	
1学期	2学期	3学期					
住友電工の工場見学(3年)	消防署見学(3年) はがきの書き方講座(2年) 町たんけん(2年) 日本製鉄工場見学(5年)	見守り隊へのありがとう集会(全校)					
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析							
次年度への改善点							

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●しまやタイムの実施 ●島屋小学校の学習環境を生かした学習の実施 ●英語に親しむ機会の充実 ●校内研究・研修会の充実 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科を中心にしたしまやタイムを各学期に2回実施して、基礎基本の定着、学力のボトムアップを図る。 ・しまやガーデン、学習園など学校独自の環境を生かし、教科の特性に応じた学習を各学期に1回実施して、学習の充実を図る。 ・系統的な英語学習、定期的なモジュール学習に加え、年間1回の英語集会（全校集会）を実施し、英語に慣れ親しむことができるようにする。 ・各学年の体育科研究授業（保健領域を含む）を年間6本、教員研修会を年間2回実施し、授業力向上を図る。 	
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●なわとび運動・かけ足週間の実施 ●いのち・性に関する指導の実施 ●保健だよりの発行、学校保健委員会の実施 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なわとび運動・かけあし週間をそれぞれ年1回実施して、運動に親しむ態度を養う。 ・いのち・性に関する指導計画を作成し、保健主事と養護教諭が連携し、各学年で学期に1回「いのち・性に関する指導」を行う。 ・毎月ほけんだよりを発行する。また、学校保健委員会を年に1回開催する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学習者用端末を活用する技能の向上 ●情報モラル教育の実施 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケートにおける「一人一台学習者用端末を使って学習することができますか?」(低学年)「一人一台学習者端末を、調べる・まとめる・発表する場面で自分の考えに合わせて使うことができますか?」(高学年)に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 ・情報モラル教育年間計画を作成し、各学年で学期に1回以上の情報モラル教育を実施する。 	
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●校内の職員同士、外部の関係諸機関とのつながりを強化し、包括的な指導・支援の体制を整え、その中で児童、教職員が成長を感じられる組織づくりを実施する。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員へのアンケート調査で、「業務上の課題を、校内の職員や関係諸機関に相談することができる。」という項目で、肯定的な回答の割合を70%以上にする。 ・教職員、児童へのアンケート調査で、「学校での生活を通して、自分の成長を感じることができる。」という項目で、肯定的な回答の割合を70%以上にする。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	